



2009年11月2日

お客さま向け資料

2009年10月30日のブラジル株式市場の値下がりについて

ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント株式会社

市況概況:

10月30日のブラジル株式市場は反落し、ボベスパ指数終値は前日比3.4%安の61,545.50ポイントで引けました。日中の高値は64,226.11、安値は60,912.74で、出来高は71億レアル(約40億米ドル)でした。ボベスパ指数構成銘柄のうち値上がり銘柄は1銘柄に留まり、ほぼ全面安となりました。

背景としては、米国の景気回復の持続性に対する懸念から米国株が売られ、ブラジルの株式市場も世界景気への懸念や月曜日の祝日を控えてのポジション調整から売られたことが挙げられます。

最大の原油消費国である米国の景気回復には時間がかかるとの懸念から、原油はニューヨーク市場で期近物が急反落し、先物価格(WTI)は前日比3.6%安の1バレル=77.00米ドルに下落、商品市況も下落し、CRB指数も前日比2.1%安の270.38となったことから、総じてリスク資産売り/米ドルと円の買い戻しの動きが強まりました。

ブラジルの大手通信会社TIMや世界第3位の航空機メーカーのエンブラエルは、第3四半期決算が不振で市場予想を下回ったことを嫌気していずれも9%超の値下がりとなり、市場の下げを主導しました。

為替市場ではレアルが売られ、対米ドルでは1.6%ドル高レアル安となる1米ドル=1.7612レアル、対円では3.4%円高レアル安となる1レアル=51.10円で引けました。(出所:ブルームバーグ)

株式市場では主力のペトロブラスが前日比2.8%安、ヴァーレ(リオドセ)は同4.0%安と反落したほか、ナショナル製鉄、ジェルダウ、ウジミナスといった鉄鋼株や、イタウ・ユニバンコ、ブラジル銀行、BM&F Bovespa(サンパウロ証券取引所運営会社)といった金融株も値を下げました。

通信株や公益株、食品関連株などのディフェンシブ銘柄も値下がりしましたが、TIM以外の主要銘柄はボベスパ指数よりも小幅な下げに留まりました。

今後の見通し:

ブラジル株式と為替の推移 (対前日比)

	ボベスパ指数	対米ドル(1米ドル=レアル)	対円(1レアル=円)
2009年10月27日	-2.96%	-0.70%	-0.96%
2009年10月28日	-4.75%	-1.98%	-3.78%
2009年10月29日	+5.91%	+2.61%	+3.69%
2009年10月30日	-3.41%	-1.64%	-3.38%

(出所:ブルームバーグ)

上表の通り、ブラジル市場では乱高下が続いており、10月27日から30日の4営業日で、ボベスパ指数は5.4%の下落、為替は対米ドルが2.8%のドル高レアル安、対円が4.5%の円高レアル安となっています。

ただし、足元の値下がり、海外要因、特に米国の景気回復に対する懸念から投資家のリスク許容度が低下したことによるところが大きいと考えられます。

新興国への投機資金の流入抑制策の導入などには注意する必要がありますが、相対的には、ブラジル経済はすでに最悪期を脱して回復しつつあり、そのファンダメンタルズは、良好であると考えられます。

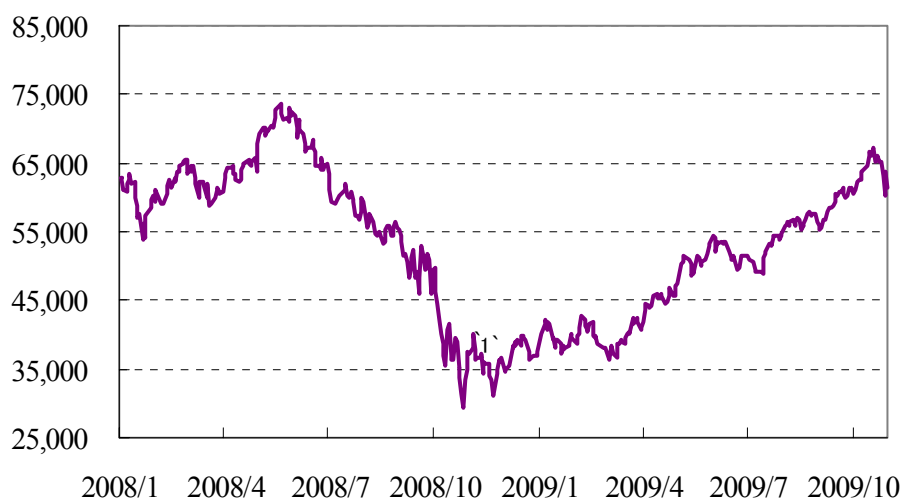
景気回復に伴い懸念されるインフレも、引続き安定しています。ブラジル中央銀行は年初から5回、政策金利(Selic)の引き下げを行い、7月には政策金利を8.75%とし、その後は据え置いています。10月20日・21日に開催されたブラジル中央銀行の定例金融政策決定会合の議事録によれば、ブラジル経済は安定的な景気回復が続き、インフレも政府目標の年率4.5%近辺に留まると予想されています。

短期的には、ブラジル市場は値動きの荒い展開になることも想定されますが、中長期的なブラジル投資の魅力は引き続き高いと考えられることから、当ファンドの運用につきましては、中長期的なブラジルの成長メリットを享受できる運用に努めてまいります。

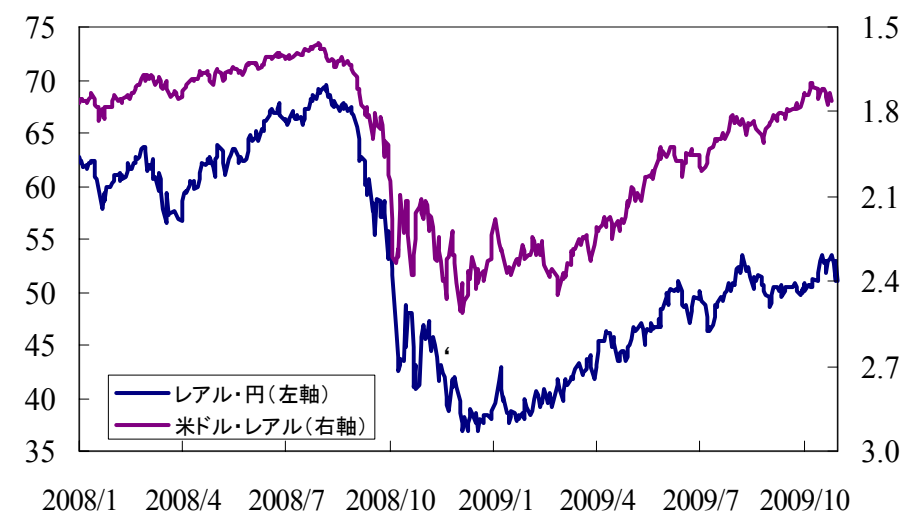
本資料は、ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント ブラジルが作成した資料をもとに、ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解および「BNPパリバ・ブラジルファンド」に関する情報を提供することを目的として、2009年11月2日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。

【ご参考】

ボブスバ指数の推移
(2008年1月2日 - 2009年10月30日)



通貨レアルの推移
(2008年1月2日 - 2009年10月30日)



本資料は、ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント ブラジルが作成した資料をもとに、ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解および「BNPパリバ・ブラジルファンド」に関する情報を提供することを目的として、2009年11月2日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。

BNPパリバ・ブラジル・ファンド(株式型・バランス型)の主なリスクと費用は、次の通りです。

リスクについて

当ファンドはリスク商品であり、投資元本は保証されていません。したがって、換金時に投資元本を下回ることがあります。また、収益や投資利回りなどは未確定の商品です。

■ 価格変動リスク

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて主にブラジルの株式や債券など値動きのある有価証券に投資します。株式の価格は政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等を反映して変動します。また、公社債の価格は、一般に金利が低下した場合には上昇し、金利が上昇した場合には下落します(値動きの幅は、残存期間、発行体、公社債の種類等により異なります)。組入株式の価格および債券価格が下落した場合、当ファンドの基準価額が下落する可能性があります。

■ 信用リスク

株式の価格は、発行企業の信用状況によっても変動する場合があります。経営不安や倒産等の重大な危機に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることがあります。また、公社債の価格も発行体の信用状況により変動します。特に、発行体が財政難、経営不安等により、利子および償還金をあらかじめ決定された条件で支払うことができなくなった場合(債務不履行)、またはできなくなることが予想される場合、公社債の価格は大きく下落します(利子および償還金が支払われないこともあります)。その結果、当ファンドの基準価額が下落する可能性があります。

■ 為替変動

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて外貨建資産に投資しますので、為替変動リスクを伴います。原則として為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受け、円高局面では当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

市場規模や取引量が少ない場合などは、本来想定される投資価値とは乖離した価格水準で取引される場合もあるなど、価格の変動性が大きくなる傾向が考えられます。このような状況においては、機動的に組入銘柄を売却できないことがあります。その結果、売却価格が大きく低下し、当ファンドの基準価額が下落する可能性があります。

■ カントリーリスク

ファンドが主に実質的に投資する、ブラジルの証券市場などの先進国以外の国の証券市場は、先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。それらの国の経済状況は、先進国経済に比較して脆弱である可能性があります。そのため、当該国のインフレ、国際収支、外貨準備高の悪化、また、政治不安や社会不安あるいは他国との外交関係の悪化などが金融・証券市場に及ぼす影響は、先進国以上に大きいものになることが予想されます。さらに、政府当局による海外からの投資規制など数々の規制が緊急に導入されたり、あるいは政策の変更等により証券市場が著しい悪影響を被る可能性もあります。上記のような投資環境変化の内容によっては、ファンドでの新規投資の中止や大幅な縮小をする場合があります。これらの社会情勢の変化によって、当ファンドの基準価額が大きく下落する可能性があります。

■ 追加設定・一部解約による資金流出入に伴うリスク

ファンドの追加設定および一部解約による資金の流出入に伴い、基準価額が影響を受ける可能性があります。大量の追加設定もしくは一部解約が行われた場合、株式の売買手数料や市況もしくは取引量の影響等による市場実勢から乖離した価格での株式の組入れおよび売却を行う必要が生じると、当ファンドの基準価額はその影響を受けます。

■ 権利行使の制限

当ファンドは、お申込日がサンパウロ証券取引所の休業日と同一の場合には、原則として追加設定・換金のお申込みはできません。また、証券取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、追加・換金の受付が取り消しまたは中止されることがあります。

費用について【ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。】

■ 申込時に直接ご負担いただく費用

申込手数料 お申込日の翌営業日の基準価額に対して上限3.15% (税込)

■ 保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬 信託財産の純資産総額に対して年率1.785% (税込)

■ その他の費用

監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等

※ その他の費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限等を示すことができません。

当ファンドの手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することが出来ません。

詳しくは、投資信託説明書(目論見書)をご覧ください。

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

商号	大和証券株式会社
金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号
加入協会	日本証券業協会 社団法人 日本証券投資顧問業協会 社団法人 金融先物取引業協会

■ 設定・運用は

商号	ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第378号
加入協会	社団法人 投資信託協会 社団法人 日本証券投資顧問業協会